

町政を問う 一般質問

一般質問では、議員が町に対して、町政全般にわたって施策を問います。
9月定例会では10人の議員が登壇し、一般質問を行った。
議会だよりでは、質問と答弁の要旨をまとめており、全文記録（会議録）は町ホームページに掲載している。

一般質問 目次

質問項目	質問者	ページ
空き家対策で快適な住環境を	荒木 睦子	7
長洲駅周辺を整備できないか	福田 史治	8
デジタル教科書の導入は		
金魚のカフェテリアが閉店したが	竹本 信次	9
町が描くこれからの道路とは		
女性活躍の施策展開状況と男女共同参画社会推進への考えは	福本みや子	10
観光の目玉になるものを考えては	磯野 博	11
交通量の多い車道や交差点の把握は	浦邊 朝章	12
町道前浜・葉山線の整備を	濱崎 久	13
金魚のカフェテリア契約解除について		
町は過失を認めないのか		
中学校部活動の地域移行はどう進めていくのか	田成 護	14
小・中学校の女子トイレに生理用品の設置を	前田美和子	15
防災士啓発事業を地域防災につなげる必要があると思うが		
18歳までの医療費の無償化を求める	林 敏哉	16



あら き むつ こ
荒木 睦子
議員

空き家対策で快適な住環境を

答 計画に基づき重点的・継続的に 取組む

少 子高齢化、人口減少や核家族化等により空き家が年々増加し、管理されないまま放置されると、防災、衛生、景観等の問題が生じ、生活環境に悪影響を及ぼす。そこで町は、平成29年3月に長洲町空家等対策計画を策定し、令和3年度にかけて取組んできたが、どのような成果があったか。

答 (町長) 町民の安全・安心の確保、利活用促進、発生抑制の推進の3つの基本方針を定め取組んできた。具体的な成果については、相談件数が224件、解体されたものが103件、空家バンク活用11件、樹木の管理等80件となった。

問 空き家に関する相談はどのように管理しているのか。また空き家台帳を作っているのか。

答 (まちづくり課長) 現地を確認し、固定資産税の情報や登記簿等の情報を確認し、所有者や法定相続人等を調べ、管理台帳を作っている。それと同時に地図データに空き家情報を登録し管理している。



解体が進む空き家

問 町内において、高齢者の独り暮らしや高齢者夫婦の世帯がどのくらいあるか。今後空き家になる可能性のある世帯はどのくらいあるか。

答 (まちづくり課長) 一区一職員で調査を実施し、令和3年度は高齢者単身世帯が530世帯、高齢者夫婦が671世帯であった。空き家の発生要因は様々で、誰も住まないような家は今後増えていくと想定する。

問 昭和56年耐震基準以前、四十年経過している住宅が30%で約2000戸になるが、そのうちの何件が空き家なのか。

答 (まちづくり課長) 空き家は245件である。

問 空き地や空き家が増えてくると、雑草や野良犬・野良猫が住みつき、地域の生活環境に問題が発生するが、どのような対応をしているのか。

答 (住民環境課長) 住民から要請があれば町環境美化条例に基づき所有者に指導・改善の通知をし、管理をお願いしている。

所有者の皆さまへ

空家の解体に補助金が活用できます！

解体費用助成金
上限 50 万円
補助対象経費の半分の額

解体費用助成金
上限 30 万円
補助対象経費の半分の額

支援制度を利用して、すてきな住まいを



ふくだ ふみはる
福田 史治
議員

長洲駅周辺を整備できないか

答 掲示板や駐輪場の整備は検討していく必要がある



掲示板を新しく！

長 洲橋上駅の通路の掲示板上の町の概略図が40年前の地図で古い。更新してはどうか。

答 (町長)

駅舎はJR九州が管理している。町は観光PRを含め、掲示や設置をお願いしている。

答 (まちづくり課長)

地図はJRと協議して、修正するか、撤去するかを協議する。

問

南側の駐輪場を、盗難防止や景観を良くするために整備できないか。

答 (町長)

厳密には駐輪場ではないが、住みよい町づくりのため、景観維持や防犯対策に取組み、駅及び周辺の環境整備を検討する。

町政を問う

問 今後、益々高齢化が進むが、バリアフリー化の実現はどうしていくのか。

答 (町長)

町の長年の課題であると認識している。JRにも度々訪問し、駅舎のバリアフリー化を含めた利便性確保の要望を行っている。

デジタル教科書の導入は

答 文部科学省の動向をみていく

問 町としては今後どのように取り組むのか。

答 (教育長)

文部科学省は、2年後の令和6年度に小学校5年生から中学校3年生の外国語・英語で先行導入することを決定している。当面は、紙の教科書とデジタル教科書を併用する方向で進められる。



教科書もデジタル化へ

問

既に全国では前倒しで取り組んでいる自治体もある。本町ではいつ頃から取り組むのか。

答 (学校教育課長)

令和2年12月からタブレットを導入し、現在、学校と家庭で使っている。デジタル教科書も導入の検討を行っている。国が令和6年度に導入する方針を示したので、まずは国の動向を見て考えていく。



たけもと しんじ
竹本 信次
議員

金魚のカフェテリアが閉店したが

答 非常に残念な結果となった



カフェテリア閉店跡

金

魚と鯉の郷広場にあるカフェテリアが本年7月で閉店した。住みよい環境をつくるために、地方創生の施策として取組んできたが成果を出せなかったのか。

(町長)

答

普通財産の使用料、光熱水費の未払いにより令和4年7月をもって契約解除に至り、非常に残念な結果となった。

問

カフェテリアに約5000万円をかけて、地方創生事業を展開した町に問題があるのではないか、責任は誰が取るのか。

答

(まちづくり課長)
町の魅力を発信する施設としての活用方法や事業の再構築等を行い、地方創生を再度目指したい。

町が描くこれからの道路とは

答

利便性・安全性・防災機能に考慮した道路整備を行う



問

現在、工事中の赤田・上沖洲線Ⅱ工区を宮野橋を曲がらず荒尾方面に通行できるのはいつ頃か。

答

(建設課長)
昨年度と今年度に工事を行った約250mの区間は、令和5年4月から共用開始を予定している。

問

赤田・上沖洲線Ⅲ工区(清原寺平原から宮野宮崎)までの区間約1.9kmの都市計画道路を整備する計画はどのようになっているか。

答

(建設課長)
令和4年度に橋梁の詳細設計や用地測量を実施する予定で、県施工区間の完成時期は、令和11年度頃を予定している。

問

赤田・腹赤線は新中学校の通学路として考えられている。赤田・上沖洲線が完成すれば、宮崎・永塩・赤田方面からの通学路にもなり得る。早急にこの道路の改良工事をすべきではないか。

答

(建設課長)
赤田・腹赤線は、赤田・上沖洲線の整備状況を見ながら検討したい。中学校統合に向けた赤田・腹赤線の通学路については、生徒の安全対策を考慮していく。

問

長洲・岱明線を延長して、新中学校(現腹赤中学校)横にばちもちさんがある上沖洲・鷺巣線まで、長洲・岱明線を整備すれば、新中学校の重要な通学路になるのではないか。

答

(建設課長)
新中学校の重要な通学路となるが、財政面等もあり、まずは赤田・上沖洲線を整備する。



ふくもと
福本みやこ
議員

女性活躍の施策展開状況と男女 共同参画社会推進への考えは

答 アンコンシャスバイアスへの啓発
と優良事業所の推進に努める



日々の生活の中から変えていこう

町 内女性の就労状況と環境は。

答 (総務課長)

町内就業女性は3,113人で、正規の職員・従業員は全体の45.6%で全国と比較すると割合は高い。パート・アルバイトは39.7%で、割合は低い状況だ。

問 ワークライフバランスを推進するために柔軟な働き方への対応が必要だ。町内事業所ではどんな取組があるか。

答 (総務課長)

町内60事業所で、仕事と家庭の両立支援について調査した。短時間勤務対応は40事業所、時間半日休暇制度導入は44事業所、深夜

業や時間外労働制限実施は39事業所、始業・終業時間の調整、フレックスタイム制度等対応32事業所、在宅勤務・テレワーク対応は16事業所等、多様な働き方に対応する事業所が増えている。

問 キッチンカー販売や、小物販売や教室等、特技や感性を活かした起業は町の活性化に繋がるので応援したい。女性起業家講座等は考えるか。

答 (まちづくり課長)

多様な働き方として起業、創業も進んできた。商工会や金融機関等と連携し、学ぶ場づくりを検討していく。

問 今回男性の育児休業取得促進奨励金制度が発足し、見える形の支援策になった。町長は就任当時から男女共同参画をライフワークとして、率先して取組んできたが、今後どのように展開していくのか。

答 (町長)

男女共同参画の推進は非常に難しいものではあるが、まず、その理念を一人ひとりが持つことが

重要であり、理念を基にやっていきたい。男性も女性も責任を持って、自らの能力が発揮できる社会、男女共同参画の視点を活かしたまちづくりを進めていきたい。



男女共同参画は家庭から

アンコンシャスバイアスとは、性別による無意識の思い込みや偏見。自分なりに解釈するという脳の機能によって引き起こされる。変えていくには、自身思い込みや偏見に気づき、正しい知識を身に付け、より多くの視点や広い視野を持つことで、客観的で公平な判断ができる。



いその ひろし
磯野 博
議員

観光の目玉になるものを考えては

答 魅力あるしくみを検討していく

○ NE PIECE 熊本復興プロジェクトにおいて、県下に麦わらの一味の銅像が建設され、大きな注目を浴びている。本町においても、プロジェクトに負けない観光の目玉になるものを考えてはどうか。

答 (町長)

今まで取組んできた観光振興事業を継承するとともに、各団体や民間事業者、包括連携協定企業等と連携し、新たな観光イベントや、長洲金魚をはじめとした観光資源の創出を考えている。

問 県はONE PIECE事業を展開しているが。

答 (まちづくり課長)

設置している10市町で対応している。一体的にどうかという声かけ等はない。

問 提案だが、金魚に関係するキャラクターが登場するので、

作者や出版社の許可のもと、麦わらの一味の事業とは別に、本町独自で設置を考えてみてはどうか。

答 (まちづくり課長)

金魚Ⅱ長洲という知名度アッ

プを図ってきている。ルートを探って町の活性化につながればと思う。挑戦していきたい。

本町に聖地巡礼スポットを

答 観光振興に力を入れていきたい

問 県はまんが・アニメのコンテンツの情報発信の取組を進めている。マンガ県熊本を目指し、

県内の大学や民間企業、自治体など54団体でくまもとマンガ協議会が設立された。この協議会に本町は参加したのか。

答 (まちづくり課長)

昨年10月に設立等の案内は



マンガ県熊本の大きな流れ

あっている。本町は加入していないが、情報収集を行いながら、検討していきたい。

問 まんがやアニメで現実の建物や風景などを用いることがあり、舞台巡りや聖地巡礼として扱われることも多くなっている。インターネットで検索すると、全国的に自治体も積極的に取り上げている。本町には、映画ロケ地や聖地巡礼スポットはあるのか。

答 (まちづくり課長)

注目されるスポットはないかと思う。ご意見をふまえ、役場内若手職員等を交えての議論や、町民の皆さんから意見を聞いて、一体的な取組が必要だと考える。



浦辺 ともあき
議員

交通量の多い車道や交差点の把握は

答 学校、保護者と情報共有をしている

学 校の通学路は、どのようにして決められているか。

(教育長)

答 児童・保護者の視点で、地区の危険箇所を把握し、安全に通学可能な道路を協議決定している。

問 スクールゾーンは、どのような基準で定めているのか。

(教育長)

答 スクールゾーンとして一方通行や大型車の通行禁止、速度の規制をするのは公安委員会である。

問 通学路の見守りには、地域住民の協力が必要だが、連携は取れているか。

(教育長)

答 登下校の見守りは、PTAの保護者や老人会、婦人会等地域の方々に協力をいただいている。安心メールや文書で情報提供し、連携を図っている。

問 スクールゾーンは特に設けていないということだが、通学の時間帯や狭い範囲で制限をかけられないか。

答 (学校教育課長)
スクールゾーンの範囲は小学

校の半径500m以内で、住民の生活圏が含まれるため、交通規制をかけるのは影響が大きい。時間帯指定は、学校と保護者等の話を聞きながら、警察とも協議をしていく。

問 町の見守り隊は高齢者が多く、後継者も少ないようだ。見守り隊に対する町の考えは。

答 (学校教育課長)
見守り隊の後継者不足は課題となっている。学校運営協議会、コミュニティスクールの推進等の中で協議をしていく。

問 歩道の幅員について、最低の幅は決まっているか。

答 (建設課長)
交通量等で変わってくるが、

基本的には2m以上かと考えられる。

問 実際は2mもないところが多い。また、区画線のないところも多い。町の考えは。

答 (町長)
児童が安全に通学することは、歩道の確保を含め、大変重要である。カラー舗装等も、白線の内側に進めていく。

問 中学校の自転車通学路について、町の見解は。

答 (町長)
ルートの一つひとつ検証して、自転車通学を安全に行えるように整備していく。



子ども達に安全と安心を



はまざき ひさし
濱崎 議員

町道前浜・葉山線の整備を

答 舗装を実施する

町 に家を建て、居住してくれることは歓迎すべきことであり、町は、インフラを整えて定住構想を拡大すべきではないか。

答 (町長)

定住を進めていくためには、道路整備が重要と認識している。ここは、近年未整備区域で住宅が増えていて、未舗装のため要望もあっているので、条件が揃い次第実施する。



町道前浜・葉山線

金魚のカフェテリア 契約解除について

答 申し訳ない

問 営業環境は経営上、無理があったのではないか。

答 (町長)

条例に基づき、事業者より事業提案がなされ運営されたので、経営上問題はなかったと認識している。普通財産の使用料未払い等により契約解除した。

問

契約解除して閉店するのなら、夏休み前でもあり開放すべきだと指摘した。なぜしないか。

答

(まちづくり課長)

施設を有効に活用してにぎわいを創出することは当然であり、申し訳なかった。今後検討し、元気のある施設、また金魚の町をPRしていく。施設がこのような状況になって、閉めなければならなくなったことについては申し訳なく思っている。



元カフェテリア
「ご自由にお入りください」

町は過失を認めないのか

答 判決を受け過失があったと認識した

問

長洲中学校の暴力事件で被害を受けた生徒と町は裁判になった。結果は、町に過失が認められると判決が下された。しかし当事者である教育委員会は過失していないと答弁している。町は過失が原因で町の税金から損害金を支払いながら、過失していないとはどういうことか。

答

(教育長)

当時の教育長が、文書の内容を確認せず過失と判決された。これ以前は教育委員会が過失したとは思っていない。

問

教育長がしたので教育委員会は過失していないというのが。

答

(学校教育課長)

教育委員会で過失したとは思っていないが、裁判で判決が出された以降については教育委員会に過失があったと判断している。教育委員会も過失を認めているということだ。



たなり まさみち
田成 護
議員

中学校部活動の地域移行は どう進めていくのか

答 学校・地域・保護者の
理解と協力を得ながら進める



行政・学校・地域の協力体制が必要

指 導者の安定的な確保が重要だ
が、具体的な方策は。

答 (生涯学習課長)

現在の地域指導者は継続して
お願いする。今後、町体育協会や
学校運営協議会等と連携し、人材
確保に務める。

問 一般的に懸念されることとし
て、勝利至上主義に走るあま
りに過熱的になり、暴言や体罰、
生徒に対する差別等、不適切な指
導も考えられる。防止するための
方策はあるか。

答 (生涯学習課長)

指導者の登録の際は、専門性
も含め、資質や能力を有する方を
確保する。さらに、資質や能力の
維持・向上のために、指導者の研
修会等を実施する必要がある。今
後、国から示される地域移行に向
けたガイドラインを参考にし、指
導者の質の保障と量の確保に向け
た具体的な方策を協議していく。

問 地域移行となった場合、保護
者の金銭的負担増も懸念され
る。受益者負担という考え方はあ
るが、会費等の保護者負担の軽減
が望まれる。行政として、金銭的
なサポート等は検討しているか。

答 (生涯学習課長)

予算の大半は指導者への謝礼
が想定される。今後、国の提言内
容が具体化される。そちらを参考
に、町として保護者の負担軽減の
ために、どの程度を、どのように
支援していくのか検討していく。



指導者の確保が重要

問 両中学校とも文化部活動は吹
奏楽部のみだが、地域移行を
期に、他の種目を拡充する考えは
ないか。

答 (生涯学習課長)

生徒のニーズがあり、指導者
の確保ができれば種目を増やすこ
とが可能である。

その他にも、シーズン制の種目
や、アーバンスポーツ等のメニュ
ー化も考えている。



まえだ みわこ
前田美和子
議員

小・中学校の女子トイレに 生理用品の設置を

答 今年度試験的に設置し
来年度正式な導入をめざす



女子の負担軽減を

生

理用品をトイレに設置することとは、生理を自然なものととらえ、負担を軽減し、安心して健康的な学校生活を送る環境を整備することだが、どのような対応をとるのか。

答

(教育長)

今年度、試験的に導入し、児童生徒や保護者と十分に協議を行い、課題を検証しながら来年度の正式導入を目指す。

問

試験的に導入するとは、どのように行うのか。

答

(学校教育課長)

今年度は、設置に向けてルール作りを行い、課題を解決、検証し、来年度は、予算を計上し、正式導入を目指す。

防災士啓発事業を地域防災につなげる必要があると思うが

答

スキルアップ講座を実施する

問

荒尾市との共同で防災士啓発事業を行い、20名の防災士が誕生した。3年間の計画で約60名となる見込みである。地域防災リーダーの育成を目的としているが、どのように取組んでいくのか。

答

(総務課長)

町としても独自の研修会や、スキルアップの場合、防災士同士の情報交換を行っていく必要があると考える。

問

本町には、女性消防隊や防災活動団体、または地域で防災の活動をしている方がいる。スキルアップ研修時に防災士に紹介することで、防災士が連携を図るとともに、地域の防災リーダーとして活動するきっかけづくりができるのではないか。



防災リーダーを目指して
(女性消防隊と防災士の勉強会)

答

(総務課長)

防災士啓発事業を活用する必要がある。実施できる方向で検討する。

問

この防災士啓発事業を活用し、各地区に防災士がいることが、地域防災の活性化につながる。本町が災害に強い、強靱な町になるのではないかと。

答

(町長)

防災対策のハード面・ソフト面において様々な事業を実施し、災害に強いまちづくりを展開していく。



はやし としや
林 敏哉
議員

18歳までの医療費の無償化を求める

答 子育て世代へのさらなる支援を図るため検討する

住

民の暮らし、生活の厳しさが一層深刻化する中、子どもにかかる経費は子育て世代にとって、最も高い比重を占める。病気やケガをしたときに医療費の心配をせず、すみやかに医療機関を受診できるようにすることは、子育て世代への大きな経済的支援にもつながると思うが。

答

(町長)
新型コロナウイルス感染症の影響により、様々な疾病により医療機関を受診する機会が増加している傾向にあり、子育て世代へのさらなる支援を図るため検討する。

問

ひとり親家庭で生活が厳しい世帯に対し、医療費の完全無償化や一部助成を行っていることは理解するが、受給対象者率は約15%にすぎず、限定的である。16歳～18歳のすべての子どもの医療費を完全に無償化する場合、必要な見込み額は年間どの位になるのか。

答

(子育て支援課長)
年間約8百万円見込まれる。



急がれる18歳までの医療費無償化

問

県内で18歳まで医療費無償化の対象としている市町村は34市町村に拡大され、町レベルでは長洲町のみが無償化を実施していない。どのように考えるか。

答

(町長)
議員の説明で、本町のみが18歳までの無償化を実施していないということを聞いた。

問

健診の受診率アップが早期発見・早期治療につながり、医療費の圧縮や適正化にもつながる。健診後に限らず、子どもの症状が軽いうちに受診して重症化を防ぐことができれば、結果として医療費の圧縮、適正化にもつながる。コロナ禍の収束が見えない今、医療費の無償化を18歳まで拡大し、医療費の負担を軽減させることこそ子育て支援の最優先課題だと考えるが。

答

(町長)
様々な提言を頂いた。検討していきたい。

問

子どもの健康と命を守るために、医療費の心配をせずに安心して医療機関を受診できるようにすることこそが、子育て支援の一丁目一番地である。そこが遅れていることが問題であることを指摘している。県の助成拡大が進まないのであれば、町独自で総合的に見て検討することを要望する。